廃57品目に

一市場の魚は廃棄少品になり、一日の取引量百キロから四十キロほどまで落ちた」と、天候の回復を祈る声が出ている。

東カリマンタン州バリックパパン市内の伝統市場では平均して、三〇―四〇％値上がりした。

転職する漁師も

バンカブリトウン州バンカ島では、一時的に廃品回収や建設労働者になる漁師ベタカイ県バンタイチュルミン沖では二十一日、漁船が高波にのまれ沈没、五十七歳の男性が死亡した。

物流への影響も

ジャワ島バンテン州にあるメラック港では、スンダ海峡が悪天候で荒れ、二十一日の時点で、スマトラ島ランプンに向かうフェリーを待つトラックが港から約十キロまで連なった。

食糧調達公社（フロッグ）東ジャワ地域の担当者によると、東ジャワ州マドゥラ島のスメネップ県では二十日の時点で、今年一月分の政府が行う貧困者向けのコメ支援（ラスキン）七十四トンが未配給という。

今年はラニーニャ現象の影響でインドネシアでは全国的に降雨量が増加。気象地理物理庁（BMKG）は、豪雨が増え、雨期が長引くと予想している。

週1日に

西ジャワ

奨励している。キャッサバは一ヘクタール当たりの生産量は四十トンから六十トンで、コメの十倍になるという。州知事自身も、代わりにキャッサバを主食にするという。同州のラッキー・ルリアマン食料安定局長は、普段からコメの消費量を減らし、果物やタンパク質をとるよう奨励している。

西ジャワ州の年間一人当たりのコメ消費量は百五キロと、全国平均の百三十キロより低い。日本の一人当たりの年間コメ消費量は二〇〇八年に六十一キロ。

国債安定化基金
国営13社が参加
外資流出に備え

外国からの資金が突発的に流出する事態に備え、インドネシア政府はこのほど、主要国営企業十三社が「国債市場安定化基金」を通じ、国債の買い支えを行う計画を明らかにした。地元紙が報じた。

国営企業十三社は十八日、ムスタファ・アブバカル国営企業担当国務相とアグス・マルトワルドヨ蔵相が昨年十二月に署名した協定に合意。大量の国債が外国資本によって手放され、債券市場に出回った場合、買い取りを行い、暴落を防ぐ。

十三社にはマンディリ銀行、ラクヤット・インドネシア銀行（BRI）、ヌガラ・インドネシア銀行（BNI）、タブンガン・ヌガラ銀行（BTN）の四銀行やジャミナン・クレジット・ブック（国内大手通信会社のテルコムセルとインドサット社の株式保有を通じ、携帯電話の利用料金設定を不正に統制し、携帯電話市場サービスの公平な競争を阻害しており、競争法（株式所有を通じた市場独占の禁止）違反を認定。最高裁も罰金の支払いを命じていた。

罰金支払いへ
不当な通信料設定

シンガポールの政府系投資会社テマセック・ホールディングス社はこのほど、インドネシア政府に対し、独占禁止法違反の罰金として百五十億ルピア（百六十五万ドル）の支払いに同意インドネシアなどの保険、ノンバンクなどが含まれている。

昨年、外国人投資家によるインドネシア株式、債券市場への投資額は、約百三十億ドルの増加となり、その七三％に当たる九十七億ドルが国債向け。外国人の保有率は国債全体の三〇％に達しており、資本流出が起これば、価格暴落が起こる可能性があるとの懸念が上がっていた。

対ミャンマー
制裁の緩和を
CSIS理事長

西ヌサトゥンガラ州ロンボク島で開かれた東南アジア諸国連合（ASEAN）非公式（リトリート）外相会議はこのほど、ミャンマー問題について意見を交換し、「欧米諸国は制裁を早期解除するか緩和すべき」との考えで一致した。

シンクタンク・戦略国際問題研究所理事長のリザル・スクマ氏は二十日付のジャカルタポスト紙で、ミャンマー国内の対立する少数民族グループの間の和解や民主化のプロセスについての議論を超えた、まったく新しい戦略をとらなければ、「国際社会は中身がないとみなすだろう」との考えを示し、議長国であるインドネシア政府のリーダーシップに期待を示した。

ASEANが国際社会に制裁緩和を求めたことについて、外部の圧力でミャンマーを変えることはできないという点で「特に目新しいことではない」と指摘。

しかし、ミャンマーの総選挙後、民主化指導者のアウン・サン・スー・チー氏の軟禁解除後、米国がオバマ政権発足後から対話路線へと転換していた後という点で、「新しいアプローチをとろうとしていることは分かる」と言及。

マルティ・ナタレガワ外相が「制裁解除と（軍政と対立していたグループの）和解は緊密に行われるべきだ」と述べたことについて、包括的な和解ができなかったり、遅れた場合に、ASEANが盲目的にミャンマーを支持しているわけではないことを意味する「警告だ」と指摘した。

―訂正―

1月18日付8面のインドネシア語検定の記事で「バリ島で初開催」とありますが「バリ島では二〇一一年七月十七日に初めて開催する」に訂正します。

「僕がガユスなら」
元受刑者ひっぱりだこ
ユーチューブからテレビへ

ジャカルタに上京し、テレビ番組で熱唱するボナさん＝アンタラ通信

スラウェシのゴロンタロ州ゴロンタロ市の元受刑者、ボナ・パブトゥンガンさん（三二）が歌う自作曲「もし僕がガユス・タンブナンだったら」が大ヒットしている。動画共有サイト「ユーチューブ」に投稿された映像の視聴回数は二十一日までに計二十五万回に達し、ボナさんもジャカルタに上京、テレビ番組にひっぱりだこになっている。

ボナさんは昨年三月、家庭内暴力事件で有罪が下り、ゴロンタロ刑務所に収監された。監獄の中にいた当時、元税務職員のガユス・タンブナン被告は計六十八回にわたり拘置所から抜け出し、バリ島でテニス観戦していた。

「もし僕がガユスなら、バリにも行ける」「願いはすべて叶う」。たばこの箱の紙切れに歌詞を書き付けた。早期釈放のために、検事から金銭を要求された体験談をもとに「おかしな国だな」「法だって金で買える」との言葉に力が入る。

昨年十月に仮釈放、一月五日に刑期を終えたばかり。黒眼鏡にカツラをかけた風貌もガユス被告にそっくりで、ギターを手に元受刑者が熱唱する映像は瞬く間に話題になった。

テレビへの出演依頼が殺到。ガユス被告の弁護人や政治家らが出演するトークショーや音楽番組で歌を披露する。同郷のゴロンタロ出身の政治家がアルバムやビデオクリップ制作の計画を持ち掛けるなど、司法関係者のモラルを問う歌として注目を浴びている。

汚職事件で総局長更迭か
新税務総局長にファド氏

大蔵省は二十一日、総局長クラスの新人事を発表、汚職罪で禁固七年の一審判決を受けた元職員のガユス・ハラモアン・タンブナン被告の騒動など疑獄事件の舞台となった税務総局のチプタルジョ総局長を更迭、後任にファド・ラフマニ資本市場金融機関監督庁（BAPEPAM―LK）長官を任命した。

そのほかの幹部は、予算総局長にヘリー・ブルノモ国庫総局長、財政均衡総局長にマルワント・アジア開発銀行理事、国庫総局長にアグス・スプリヤント政策センター所長らが任命された。

アグス・マルトワルドヨ蔵相は、ファド氏の任命について、「この四年間、長官として資本市場の信頼を得るだけの業績を上げてきた」と評価。「ガユスの事件もあり、税務汚職の問題を非常に憂慮している。ファド氏の指揮の下で状況が改善することを望んでいる」と述べ、税務総局内の汚職一掃に期待を示した。

ガユス被告の贈賄疑惑
企業幹部の聴取開始

国家警察

国家警察は二十一日、大蔵省税務総局の元職員ガユス・ハラモアン・タンブナン被告（汚職罪で禁固七年）が在職中、徴税業務を手掛け、同被告にわいろを渡した疑いのある企業のうち二社の捜査を開始、企業幹部を事情聴取したと明らかにした。警察は今後、ガユス被告に当した企業幹部の聴取を、さらに進めていく方針。

J.S. 2011.1.22土